

式 辞

先ほど卒業証書を授与された139名の卒業生及び保護者の皆さま、ご卒業まことにおめでとうございます。

寒気も緩み、本格的な春の到来を感じさせるこの良き日に、卒業生、保護者、御来賓の方々と一堂に会しまして、戸田翔陽高等学校第五十八回卒業式を挙行できますことは、私共、職員一同、大きな喜びとするところであります。

卒業生の皆さん。皆さんはこれまで、戸田翔陽高校という一つの学び舎で共にすごしてきましたが、四月からは、企業等へ就職する人、大学や専門学校へ進学する人、あるいは今しばらく次へ進む準備をする人など、様々に道が分かれます。いずれの

道に進むとしても高校を卒業すれば、皆さんは世の中から、一人前の大人として扱われます。

さて、そんな大人になろうとしている皆さんに、私はこの式辞の場を借りて白状しなければと思っていることがあります。

何かと言いますと、私はこれまで入学案内のパンフレットをはじめとして様々なところで、「夢はありますか」とか「夢を持とう」ということを言ってきました。しかし、実は私はこの「夢」という言葉があまり好きではありません。

正確に言うと、「好きではない」というより、「子供は夢を語ってもいいけれど、大人は夢という言葉をもやみに使うべきではない」と考えています。なぜかという「夢」という

言葉は、漠然・曖昧としていて、実現してもしなくても構わない感じがするからです。

もし、小学生が、「大谷翔平みたいなメジャーリーガーになるのが夢です」と言ったならば、私は「いいね。頑張っ
てね」というでしょう。それに対し、高校生や大学生が、同じことを言ったならば、私は「どこの球団に、いつ、どうやって入るつもりなのか。そのためにどんなトレーニングをしているのか」と聞くでしょう。そういったものが無くて、ただ休日に仲間と草野球をやっている程度であれば、「寝言はやめろ」というかもしれません。

こどもには成長するための時間も可能性もたっぷりあります。だからどんな「夢」を語っても良いと思います。しかし大人は違います。大人に必要なのは、漠然とした「夢」ではなく、はっきりとした「目標」とそれを実現するための「計画」と「手段」です。目標は「オリンピックで金メダルを取る」でも「世界一の大金持ちになる」でも良い、小さくまとまる必要はない、と思います。しかし、「そのために、何をどのようにするのか」の考えがなければ、それは決して実現しないただの「夢」です。

繰り返しになりますが、これからの皆さんはもう子供ではありません。子供の時の「夢」をあきらめる必要はありませんが、それを「目標」に変え、「計画」を立て、「手段」を着実に実行していかなければなりません。もちろん、それでも「目標」を達成できるとは限りません。しかし、それに向かって歩き出さなくては、目標に近づくことはできません。

戸田翔陽高校で学び、成長してきた皆さんであれば、しっ

かりと目標を立て、それに近づくための力強い第一歩を踏み出せると思います。

結びに、保護者の皆さま、来賓の皆さま、本日、卒業生は戸田翔陽高校を巣立ちます。高校を卒業すれば、一人前の大人としての責任が課せられます。しかし、まだまだ彼らは未熟で不慣れです。若者たち一人ひとりが、自立しその力を存分に伸ばせるよう、もうしばらくの間は、あたたかな目で見守り、時に適切な助言をくださいますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さんが、今後の人生において、よく努力し、多くを獲得できますよう祈念して、式辞とさせていただきます。

令和七年三月十二日

埼玉県立戸田翔陽高等学校長 鈴木 健